

一般社団法人 豊岡青年会議所

2014年度 理事長スローガン

徳器成就

～道義正しき勇者たれ～

絆
きずな

豊岡JC

検索

<http://www.toyooka-jc.or.jp>



2014年度を振り返って



第54代理事長
二方 道正

大きな希望と大きな不安を胸に飛び出した2014年。半世紀を超える永い歴史に象徴される地域最大組織を牽引する重責を感じる毎日でした。穏やかな航海もあれば、嵐吹く大時化の航海ありと、私にとって正に激動の一年でありましたが、着岸地である港の岸壁が視界に捉えるところとなりました。

あらためて、私如きの若輩者が伝統ある豊岡青年会議所の理事長という大役を全うできましたのも、現役メンバー、先輩諸兄、行政、各種団体の皆様をはじめ、多くの方々のお支えがあったからこそであります。まずは、心からの御礼を申し上げたいと存じます。

本年度は、「徳器成就～道義正しき勇者たれ～」の理事長スローガンを掲げ活動して参りました。非常に住み暮らしやすい時代となった日本。その引き換えとを感じるほどの自然災害の多さは我々への忠告のように感じざるを得ません。どこで何が起きてもおかしくない時代だからこそ、地域のリーダーとして、また青年経済人として揺らぐことはない

強い心の柱の構築が必要との思いでありました。あたりまえの事があたりまえにできる人として、また団体として、次代のこの地域を担う人財と共に学んだ時間は、責任世代を生きる我々に、あらためて強い責任感と使命感を醸成させてくれました。

多くの仲間と過ごした時間と大粒の汗をかいた行動力は個人の成長だけではなく、組織力の強さに繋がります。1961年の創立以来、先輩諸兄もそうであったように、青年としての「英知と勇気と情熱」を捧げ、明るい豊かな地域社会の実現に向けて真の目的実行集団として進化し続けることをメンバーで再確認することができました。一般社団法人豊岡青年会議所が永遠に威風堂々とした団体であるための過程として、2016年度に兵庫ブロック第49回ブロック大会を、愛する豊岡にて開催させて頂くことが決定致しましたことをここにご報告申し上げます。あえて厳しい道への選択はマイナスではなくプラスであります。LOMが一丸となり目標に向かって再び突き進むことで、見えない未来が見えてくると信じております。

結びとなりますが、特別会員の皆様、そして現役メンバーの皆様、お支え賜った多くの皆様に心からの感謝を申し上げますと共に、一般社団法人豊岡青年会議所へ変わらぬご厚情を賜りますように、切にお願いを申し上げます。2014年度一年の御礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

2014年度卒業予定者よりメッセージ



峰高 秀和

あつという間の13年間。気がつけばこんなに年月が経っていたなんて・・・この間私は成長できたのだろうか・・・それは今後の私の人生で答えが出ることだろう。でもただひとつ言えるとすれば、間違いなく私の人生の中で最も充実したかけがえの無い時間を過ごし、何事にも変えることが出来ない経験から人間としての幅は広がったに違いない。

入会した頃は世の中のことなどほとんど考えず、若さに任せて馬鹿な事をたくさんやっていた。斜に構えJ Cのルールさえ自分なりに解釈して楽しんで好き勝手やっていたように思う。でもいろんな経験をする中で、いつの間にか周りに感化され、どっぷりはまっていた。それは今思えば己の未熟さに気づかされた時からだと思う。すべてにおいて自分のほうが浅く、先輩達がやることには全てに意味があり、それには筋が通っていて納得させられる。己の未熟さに気づかされ、他人の情熱に感動し、仲間との友情の中で絆が生まれる。そんな素晴らしさに気づいてからJ Cが本当の意味で楽しくなった。

J Cでは全てにおいて明確な正解は見つからない。何のためにJ Cをしているのかさえ、ストレートに伝えるのは難しい様に思う。数学のような正解は恐らくないのだろう。でも答えは必ずあるはずである。チャレンジした先にこそ答えがある。自分だけでなく、誰も答えが分からない物事に対して、自分で仮説を立てて立証していく「勇気」と「しつこさ」を持つ。これこそがこの先の時代を勝ち残る上で、個人にも集団にも最も必要な能力だと思う。そんな事を身をもって体感させてくれる。そんな組織はJ Cしかないと思う。

学校を出て以来、卒業なんて気持ちはすっかり忘れていたが、今回の卒業は少し違う気がする。それはこの先、進学や就職など次のステップへの受け皿がないからだと思う。すなわちこれからは自分が社会でなにを成すべきなのか、その答えを出し、伝えていく時になったのだとを感じる。J Cを卒業し、これからの自分の人生に夢と希望を膨らませながら改めて全てに心から感謝申し上げたい。本当にありがとうございました！！



二方 道正

2009年の入会以来、6年間のJ C生活を振り返るにあたり、あらためて時の経つ早さに驚きを感じております。今、この原稿を書くと同時に強く頭に浮かぶことがあります。それは、豊岡J Cに入会していない時の今の自分が想像できないのであります。恐ろしいほどの恐怖と不安が入り混じった感覚に囚われています。それほど豊岡J Cでの活動が今の、私を支えている原動力になっている証拠でもあります。正直な話・・・2009年の入会前、3年は確実に入会を躊躇っていた自分がいました。今、思うとJ Cらしく「はい喜んで」と決断していたのなら、また違ったJ C生活が見えていたのかもしれませんが・・・

とりあえず、6年間の限られた時間の中でのJ Cスタートでありました。9名の同期メンバーに恵まれたことが大きかったのは事実であります。歳は違えど同じ境遇の同期メンバーとの出会いは悩み疲れた時の、心の拠り所でした。2010年理事長セクレタリー、2011年CD副委員長、2012年9名の新会員を預かる指導力開発委員長、2013年副理事長と気が付けば毎年多くの関わりと経験を積ませて頂いておりました。そして最終年度は畏れ多くも理事長を拝命しましたことで、自然と一年のボーナスが与えられ、賛助会員ではありますが在籍7年となることに嬉しさを感じると共に、また違ったJ C生活が待っていると期待しているところであります。

何はともあれ、豊岡J Cは私に多くの気づきと学び、そして何よりも尊き出会いと友を与えてくれました。だからこそ、今の自分自身を支える少しの自信とやる気が備わっていると確信致しております。まさに財産そのものであります。これからは、培った力を地域や会社、家族へと恩返しの旅へと向かいたいと思います。

豊岡J C卒業に際し、多くの出会いと関わりを賜った皆様に心からの感謝を申し上げます。本当に世話になりました。ありがとうございました。



2014 年度卒業予定者より～ J C 生活お疲れ様でした～



荒木 健

2009年度入会で6年間在籍させて頂きました。やはり1番の思い出といえば入会1年目に指導力開発委員会に配属され右も左も分からないまま、委員長の言われることが全てだと教わり活動したことです。また、かけがえのない9名の同期との出逢いでもありました。お互い切磋琢磨し活動していましたが、避けては通れない同期との別れがあり、その別れがまた自分自身を成長させてくれたと感じます。

豊岡青年会議所の活動は、先輩諸兄が築き上げてこられた歴史と伝統の上に成り立ち、どんな事業でもメンバー全員が一丸となって初めて成功するものだと感じました。その精神は、会社であろうと家庭であろうと同じで、私の人生の基盤となりました。もし青年会議所に入っていなかったらという言葉は耳にしますが、他の青年会議所で活動するのと豊岡青年会議所で活動するのは全く違う活動ではないかと思えます。間違いなく豊岡青年会議所に入会させて頂いたことが今の自分を作り成長させて頂いたのだと思います。

今こうして思い出を振り返って文章を考えていても本年度で卒業するのだという実感が全くありません。私が燃え尽きるまで必死で活動しなかった後悔の念が実感をさせないのか？全く成長していない自分がいるのか？または、卒業したくないのか？正直、全く分かりません。

しかし、確実に言えるのは豊岡青年会議所に入会させて頂いて数々のご縁を頂いたことに感謝しております。いえ感謝しかありません。本来ならば、思い出の事業や、こんなに成長させて頂いたなどを書くのが普通なのかも知れませんが、私は入会させて頂いたことが全てですので敢えて書きません。

最後になりますが、私が青年会議所活動をするにあたり、色々とお迷惑をおかけしたメンバーの皆様と、先輩諸兄、6年間文句も言わず支えてくれた家族と、どんなに忙しくても快く送り出してくれた会社の皆様へ心より感謝御礼申し上げます。6年間という短い期間ではございましたが、本当にありがとうございました。



熊田 宏章

自分の人生に於いて、また一つ大きな節目を迎えようとしています。J Cに入会して8年、とうとうこの時がやって参りました。30代という青年期の大半を費やしたこれまでのJ C活動を振り返ると万感の思いで一杯です。

2007年にご縁を頂きJ Cに入会しました。そこはこれまで経験したことも見たこともない世界で、入会当初は何もかもが新鮮で毎日が緊張の連続でした。同時に、組織にもあまり馴染めず、違和感ばかりを抱いていました。しかし、入会してから時間が経つにつれて、少しずつ色々なことが分かってきました。同時に、自身の心も少しずつ変化していきました。その転機の一つが、理事長セクレタリーという役職を拝命した時です。この時は多くの時間をJ Cに費やしました。仕事やプライベートとの両立が難しく、正直苦しい時もありました。しかし、光り輝く諸先輩方の姿を身近に感じながら、J Cの本質を目の当たりにし、その経験が増す毎に自身の価値観や考え方に前向きな変化が表れてきました。

それ以降もJ Cは私に様々な機会を与えてくれました。少しずつ表舞台に立たせて頂ける様になると同時に、これまであまり見せることもなかった自分が露呈されていきます。その都度、周りの仲間達から自身の欠点や弱点を指摘され叱咤激励を頂くことで、まずは己を知る機会を頂きました。その後には、人によって磨かれるということを実感しながら、多くの方との出逢いと関わり合いから多くの気づきや学びを得て、自らの成長へと繋げさせて頂くことが出来ました。J Cは私に成長の機会をくれましたが、その多くが人との繋がりから頂いたものでした。その繋がりこそが、私がJ Cで得たかけがえのない宝です。

今後は、J Cでの経験とそこで得た宝を大切に、生涯Jayceeとしての誇りを胸に次のステージで遺憾無く発揮していくことをお約束申し上げ、皆様への感謝の言葉とさせて頂きます。8年間お世話になりました。本当に有難うございました。



2014 年度卒業予定者より～ありがとう J C～



2002年に入会して以来13年間豊岡青年会議所ではたいへんお世話になりありがとうございました。中学校までは地元で育ちましたが高校から県外に出ており11年ぶりに帰郷、徐々にではありますがメンバーの皆さんと切磋琢磨をしながら、「私」だけではない「公」の考え方を身につけることができました。入会初年度に兵庫ブロック協議会の会員大会が豊岡で開催され、よく理解できない中でも大規模な大会の主管に関わらせていただき、驚きの中にも素晴らしい経験をさせていただきました。修練・奉仕・友情の三信条のもと互いに力を尽くし、自分のためではなく誰かのために汗をかく、生きていく上で大切なものを感じ取ることができました。単年度制ゆえに L O M の内外で様々な役職を経験させていただきました。時には先輩やメンバーの皆さんに大きな支えをいただきました。

西村 総一郎

言い尽くされた感がありますが少子高齢化は進む一方で、地方が活気を保ち続けることが容易ではなくなっています。また時代の変遷と共に大切なものが失われていくことを感じることもあります。私は地域活性化とはそこに住む人が幸せであり、その地域が持続可能であることだと考えています。青年会議所で学んだことや多くの方々と触れ合った経験、繋がりを存分に活かし、後代の地域の担い手に今より少しでもよい社会を伝え残していけるように卒業した後も努力を続けていきたいと思ひます。またこんな時だからこそ豊岡青年会議所の存在意義が高まっていると思ひます。2015年度以降も地域になくてはならない青年組織として、そしてリーダーを輩出し続ける組織として力を発揮していただくことを切に願ひます。

最後になりますが人生にとって生き活きとした40歳までの青年期にすばらしい機会を与えていただいた先輩諸兄やメンバーの皆さん、そして共に歩みを進めてきた同期のメンバーの皆さんに心よりの感謝を申し上げます。



四十にして惑わず、という言葉があります。J Cに入会していなければ、四十になっても惑いまくっていたと思ひます。入会して4年、短い期間ではありましたが、他では得られない様々な経験をさせていただきました。仙台まで受けに行ったセミナー、災害支援、創立50周年記念事業、兵庫ブロックへの出向、サマーコンファレンスに全国大会、例会や理事会、委員会活動、その他にも数多くの事業を経験させていただきました。それらを通じて多くの人と出会い、沢山の勉強をさせていただいたおかげで、自分自身の今後の在り方、生き方としての軸となるようなものを見つめ直すことが出来ました。

山崎 憲一

1つ目は日本人としての誇りと気概をもつということ。先人たちが築いてこられた気風と伝統をしっかりと受け継ぎ、次の世代に伝えていくことの大切さに気づかせてもらいました。2つ目は常にお・か・しの心を忘れないということ。常に他を思いやり、何事にも感謝し、相手を信頼する、特に本年度はその大切さを心の底から実感しました。3つ目は行動に移す勇気をもつということ。J Cに入会したら知り合いはすぐに出来るが、仲間と呼べる存在が出来るかどうかは自分の行動次第、という言葉が強く印象に残っています。失敗を怖がらず、勇気をもって一步を踏み出すことで仲間が出来ること、そしてそれがかけがえのない宝物になることを改めて教えていただきました。

この学びを胸に刻んで、四十からの人生をしっかりと歩みたいと思ひます。そしてこの4年間の恩に報いるためにも、卒業後も会員拡大に取り組みます。最後になりましたが、至らぬ点多々ある中、最後まで支えていただきました諸先輩方をはじめ、現役メンバーの皆様には心より感謝、御礼申し上げます。大変お世話になりました。ありがとうございました！



11月第1例会・臨時総会

於：じばさんTAJIMA5F豊岡靱協会ホール



総務委員長
大将 伸介

11月第1例会・臨時総会をじばさんTAJIMA5F靱協会ホールにて開催いたしました。第1例会では、理事・役員・出向メンバーなどが会務報告を行い、それぞれのこの一年間の活動の総括行うと共にそれぞれの成長を語り、共に活動してきたメンバーへの感謝の言葉が多く聞かれ、青年会議所の友情を感じる時間となった。

例会終了後、臨時総会が開かれ議長に国際関係委員会委員の久保田一三君が選出された。久保田議長により議案採択が行われ、2015年度の事業計画案と予算案が議案として取り上げられた。久保田議長の進行により両議案の提案説明と質疑応答が行われ、活発な議論が交わされたのち採決へと移り、両議案共に全会一致により可決・承認された。また、二方理事長より2015年度の出向理事のメンバーが発表されると共に、2015年度の新入会員3名も発表され、次年度の足音が聞こえてきそうな緊張感のある臨時総会となった。



11月21日(金)

K I T H 研修事業

於：東近江市



会員交流委員長
尾嶋 伸介

K I T H青年連絡協議会の運営幹事を務めさせて頂いております尾嶋です。

本年度はK I T H青年連絡協議会の会長として二方理事長と小西専務と共に活動をさせて頂いております。

2014年度は1市5町が合併してから10年が経とうとしている豊岡市にこれから何が必要なのかを知るため、平成の市町村の

大合併が行われた中でも、成功したと言われている東近江市がどのように合併の短所を長所に変えることが出来たのかを学ぶために東近江市役所とその周辺施設の視察を事業として行わせて頂きました。

当日は22名のK I T H青年連絡協議会のメンバーが参加し、当LOMからは7名のメンバーが参加しました。当日の夜は懇親会も行い、各単会のメンバーたちと大いに懇親を深めることが出来、大変有意義な一日となりました。



11月28日(金)19:30～21:08

総務委員会

11月第2例会

於: じばさんTAJIMA5F 豊岡靴協会ホール



11月第2例会「勉強会～定款・諸規定を考える～」を開催した。設立以来多くの先輩諸兄の想いの詰まった定款・諸規定をしっかりと次代に引き継ぐためにも、時代の変化の中で変わってもいいもの、変えてはいけないものをメンバー相互で議論することで組織の活性化を図る機会とした。また、現在LOMにとって喫緊の課題である会員拡大を財務面から話して頂き、事業費の確保と会員拡大の両立が図れる青年会議所活動の在り方を議論して頂いた。メンバー相互の意思疎通を図る良い機会となった。

(総務委員長 大将 伸介)

11月27日(木)19:00～21:00

総務委員会

公開討論会

於: 豊岡市民プラザ



第47回衆議院議員総選挙兵庫県第5区立候補予定者公開討論会を豊岡市民プラザ ほっとステージにて開催した。当日は、立候補予定者の谷 公一氏、西中 たかお氏、三木 けえ氏の3氏がお越しになられ、また坂本副理事長がコーディネーターを務められ、経済政策、税と社会保障、この国の在り方、地方創生の4つのテーマでそれぞれの政策を伺うとともに、立候補予定者同士のクロストークが行われ、市民が政策本位の政治選択を行うための機会を提供できた。

(総務委員長 大将 伸介)

■ 事業案内 ■

■新春賀詞交換会

日時 1月1日(木)10:50～12:00

場所 小田井縣神社・小田井会館

■1月第1例会

日時 1月9日(金)18:30～20:30

場所 じばさんTAJIMA5F 豊岡靴協会ホール

■通常総会

日時 1月9日(金)20:30～

場所 じばさんTAJIMA5F 豊岡靴協会ホール

11月19日(水)

第1回じゃがいもクラブ

於: 久美浜カンツリークラブ



11月19日(水)、2015年度第1回じゃがいもクラブコンペを久美浜カンツリークラブにて、特別会員15名、正会員20名の参加を頂き開催致しました。優勝の栄冠は大石聡正君が獲得されました。その他の成績は次の通りです。

優勝 大石 聡正 君 (G76、H6、N70)
準優勝 足立 武行OB (G96、H25、N71)
第3位 吉尾 甲介 君 (G87、H15、N72)

(じゃがいもクラブ支配人 高岡 正博)

1年間よろしくお願い致します。

2015年度じゃがいもクラブ

幹事長 二方 道正

支配人 高岡 正博

幹事 秦 斎、小林 博文、久保田一三、

大将 伸介、田岡 聖司、小林 千晶

以上8名

■編集後記■

2014年度は、理事長スローガン「徳器成就～道義正しき勇者たれ～」のもと、歴史と伝統ある広報誌「絆」を受け継ぎ、メンバーの躍動する姿が伝わるように、試行錯誤を繰り返しながら発行して参りました。また、先輩にお話を伺うことで、今ある我々の活動が、当時どのような想いで始まり今に至るのかをお伝えするべく、お時間を頂戴したこともありました。そして、普段でしたら伺うことが無かったであろう貴重なお話をお伺いすることが出来、この役をさせて頂けた事を嬉しく思ったことを今でも鮮明に覚えております。

また、本年度は600号記念誌を発行するにあたり、先輩諸兄の偉業や、その功績を敬仰すると共に、本年度広報委員会メンバーとして600号記念誌の発行に携われたことに深い感銘を受けております。この、広報誌「絆」が少しでも皆様の活動の糧となりましたらこれほど嬉しいことは御座いません。最後になりましたが、突然の原稿依頼等、皆様にご協力頂いたことで、無事1年間発行できた事を、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

(広報委員会)

発行日: 平成26年12月12日

住所: 豊岡市幸町6番35号

TEL: 0796-22-4041

発行所: 一般社団法人豊岡青年会議所

編集発行人: 広報委員会

印刷: 広報委員会